

【全体概要】

徳之島には温暖な気候を生かした熱帯果樹品目として、また、比較的気象災害に強い品目として古くからピタヤ（ドラゴンフルーツ）が栽培されている。近年、既存品種と異なる“おいしいピタヤ”が島内で選抜された。そこで、選抜品種による栽培技術の確立や販売の活性化に向け、地元のピタヤ研究会と連携して機能性成分の有利性を確認するとともに、安心・安全な国産完熟果実を供給できる産地づくりを目指す。

新品種・新技術等の概要

ピタヤは、過去に沖縄県を中心に多方面から導入された経緯もあり、系統・品種名など不明確なものが島内に多数存在している。また、本格的な産地づくりを進めるにあたっては、栽培技術情報が少なく、技術確立が必要である。

A 品種（品種名なし）

○ピンクピタヤ：果肉色は桃色。赤系・白系の花粉を使い交配して出来る品種

○紅・白ピタヤ：自家和合性。2つとも島内での選抜品種

B 技術：トンネル・露地栽培との比較による作業性・着果性の検討。

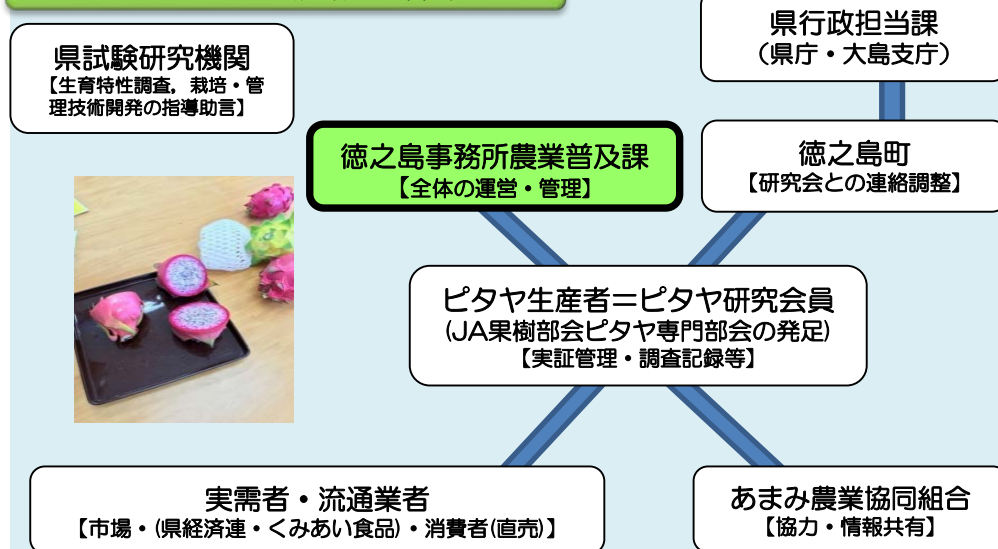
- 露地栽培とトンネル型ハウスを利用した、生産性の比較と栽培技術の確立。
- 差別化販売のためのPR活動への取組。

主な取組内容



- 品種の特性把握と技術確立
 - ・ 成分分析による機能性調査
 - ・ 栽培技術検討会【研究会の開催】
- ピタヤ研究会活動
 - ・ 果実販売に適した規格の検討
 - ・ 大阪・神戸・東京の市場等でのPR
 - ・ 沖縄県農試・先進栽培農家からの栽培技術等の情報収集
- 将来に向けた優良系統の交配・選抜
 - ・ さらなる優良系統の育成に向けた農家個々で交配・選抜の実施
- コンソーシアム候補形成活動
 - ・ 生産振興に向けた地域内検討の充実
 - ・ JA・試験研究機関等を交えた技術・販売に関する情報交換の実施

コンソーシアム候補の体制図



実績と今後の展開

- 取組実績
 - ・ 機能性調査により、夏季の成分が豊富であることが判明
 - ・ 果実販売に適した出荷規格の決定（500g前後）
 - ・ 実需者訪問による食味調査の評価「非常に好評」
 - ・ 「希少価値の果実」のイメージをPR（市場での知名度拡大）
- 今後の展開
 - ・ 栽培暦の作成及び栽培技術の高位平準化、生産量の拡大
 - ・ 島内観光客へのPR、消費拡大
 - ・ 優良系統の育成及び種苗登録の検討